



絵本作家 三枝三七子さんから水俣を学ぶ

本日1日(水)は、絵本作家の三枝三七子さんをお招きして、5年生が水俣について学びました。三枝さんは、2011年に出版された「みなまたの木」では、日本初の公害というテーマを子供の本の世界に持ち込まれました。また、2013年に出版された「よかたい先生」では、50年もの間、患者の側に立ち続けた医師原田正純先生について描かれました。過去を知り、未来に生かすことの大切さを伝える原田先生からの最後のメッセージを発信されています。三枝さんは、これまで熊本に何度も足を運ばれて、たくさんの子供たちに水俣のことを知ってもらおうと啓発活動を行っておられます。なんと帯西には昨年度に引き続き、計3度目の来校となりました。



5年生は、7月11日(火)に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で水俣に見学旅行に行きましたので、まさにそのまとめの学習にぴったりの講演となりました。

三枝さんの水俣との出会いは、「想像すらせず、何も知らない」ことから始まったそうです。絵本を開いてもらって、水俣のことを知ってもらいたいという思いを強くし、絵本を書き始められました。その中で、原田正純医師と出会い、人々の心に相手を思う想像力が無かったこと、企業の想像力がなかったことを教えられたそうです。

また、区別と差別の違いについてもふれられ、区別は「目的があって成果を得るために分けること」、差別は「その人らしさを迫害して、生きる権利を認めないこと」で、決して許されないことだと毅然と話されました。

そして水俣病のように、二度と悲しい過ちを起こさないために「知ること、思うこと、考えること、動くこと」が大切だと教えていただきました。

子供の最後のまとめの感想で「僕は帯西ブルーの心が伸びました。水俣病で亡くなった方々もいらっしゃるけど、今までその人たちの気持ちまで考えられなくて、これから4年生に伝えていくときに、出来事だけではなく、その人たちの気持ちまで伝えていきたい。」と述べていました。そして、それぞれが自分の言葉で、今回の学びについて振り返っていました。

最後に、子供たちは「この星に生まれて」という昨日の音楽会の合唱曲をお礼の思いを込めて歌いました。その歌詞に「何かを探してこの星に生まれた」とあります。水俣病の学習を通して、当たり前になることの大切さを感じた子供たちは、心を込めて歌いました。「Dreams come true Together かならず叶うから」は未来の子供たちの心を照らしているようでした。5年生の合唱を聴かれて、三枝さんは涙ぐまれて、「帯西の子供たちは、自分で考えてしっかりと意見を述べていますね。私の話も子供たちにすっと入っていく感じがしました。」と感心されて帰路につかれました。

水俣病はまだ終わっていません。ぜひ、今年度の学びを次年度の平和学習、そしてさらにその先にある自分たちの生活に活かして欲しいと思います。